

平成 30 年 3 月 1 日

新潟県立長岡聾学校  
校長 小川 司

平成 29 年度 学校評価の結果について（報告）

全校共通の取組

(1) いじめ見逃しゼロスクールの推進

学校では、すべての子どもが、安心して学校生活を送り、様々な活動に積極的に取り組み、自分の力を高めていくことを目指して、よりよい人間関係づくりや円滑なコミュニケーション、社会性の育成などに努め、いじめ等の防止に学校全体で取り組みました。今年度は、いじめ見逃しゼロスクール集会として、校長講話を6月と11月の2回、白鳥会会長からの話を2学期始業式に実施しました。幼児児童生徒、全職員一丸となってこれからもいじめ見逃しゼロの取組を続けていきます。

○保護者アンケートの結果

【問1】子どもが安心して学校生活を送るために、学校は適切に取り組んでいる。

	7月実施	12月実施
ア あてはまる	96%	95%
イ あてはまらない	0%	0%
ウ 分からない	4%	5%

(2) 一人一人の教育的ニーズに応える教育の推進

一人一人の教育的ニーズを把握し、それに基づいた確かな教育実践を行っています。2学期は幼児児童生徒が主体的に活動した行事等がたくさんありました。

○保護者アンケートの結果

【問2】一人一人の教育的ニーズに応えるため、学校は適切に取り組んでいる。

	7月実施	12月実施
ア あてはまる	95%	95%
イ あてはまらない	0%	0%
ウ 分からない	5%	5%

## 幼稚部

### アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

#### 1 成果と課題

今年度は、学年学級の遊びの時間を中心に「友達と言葉や身振りサイン、表情、仕草等を使ってかかわろうとする力の育成」について取り組んできた。その結果、3歳児は、最初は母親や教師へのかかわりがほとんどだったが、友達をよく注目するようになり、名前を呼び合ったり遊びを真似たりしながら一緒に活動する姿が見られるようになった。4歳児は、いろいろな伝承遊びや手遊びを覚え、ちょっとした合間の時間に子どもたちから自然とやり始めるようになった。また「給食が終わったら〇〇ごっこして遊ぼう」と友達を誘う姿が見られるようになった。5歳児は、自分たちでチーム分けをして花いちもんめをしたり、お店屋さんになりきり「次は〇〇の番だよ」「赤組さんはこの線から投げてね」等、下学年の子にも声を掛けたり、遊びをリードする姿が見られるようになった。

各学年学級の遊びを積み重ねる中で、ルールややりとりの仕方を覚え、子ども同士でかかわる姿が増えてきた。また、学年学級だけでなく全体の自由遊びでも「何してるの」「入れて」等と声を掛けながら4歳児と5歳児が同じ遊びを楽しむ場面が数多く見られるようになってきた。

今後も、発達段階に合わせた学年学級の遊びの設定を継続し、ルールややりとりの仕方を身につけさせると共に、学年で遊び込んだものを全体での遊びにつなげていながら、友達とかかわろうとする力の育成に取り組んでいきたい。

#### 2 成果……めざす子どもの姿

◇身近な人と言葉や身振りサインを使ってコミュニケーションを図る。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎友達と言葉や身振りサイン、表情、仕草等を使ってかかわりながら遊ぶ。 ○80%の幼児が評価項目にかかわる個別の指導計画の目標を達成する。<保護者・教師>	【評価】 A ・学級担任と保護者で話し合い評価した結果、100%の幼児が個別の指導計画（人間関係の領域）の目標を達成しました。

#### 3 教育活動

◇身近な人と言葉や身振りサインを使ってコミュニケーションを図ることができるよう指導する。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎内容や個々のねらいを明確にした学年学級の遊びを設定する。 ○月に1回、学年学級の遊びの時間を設定する。 <教師> ※裏面「各学年の遊びの様子」参照	【評価】 A ・ゲームや伝承遊び、リトミック等、平均月に1回以上、内容や個々のねらいを明確にした学年学級の遊びを設定しました。

#### 4 運営活動

◇「幼児が身近な人と言葉や身振りサインを使ってコミュニケーションを図るための指導のあり方」について幼稚部職員全員で共通理解を図ったり、研修を行ったりする。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎遊びが効果的に行われるように幼稚部職員が共通理解をし、テーマに沿った研修をする。 ○月に2回以上、研修日を設け、テーマに沿って研修したり共通理解を図ったりする。<教師>	【評価】 A ・月に平均2回以上の研修会を開催し、遊びが効果的に行われるように内容を検討したり、共通理解を図ったり等、テーマに沿って研修しました。

\*評価結果欄のA, B, Cは、下記の評価を表しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

#### 【保護者アンケートの結果】

『幼稚部は「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」のために、適切に取り組んでいる』の設問に対して、7月と12月のどちらのアンケートでも全家庭から「あてはまる」の評価をいただきました。今後もアクション・プランを真摯に実行し、保護者の皆様との共通理解を図りながら子どもたちのコミュニケーションの力の育成に取り組んでいきます。

## 小学部

### アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

#### 1 成果と課題

学年内や学部としての取り組み、また、縦割り班での様々な取り組みなど、意図的な活動を繰り返し組織することで、コミュニケーションの力を育成することをめざしてきた。その結果、下学年では友だちの発言に耳を傾け、常に質問や意見を言おうとするようになった。上学年では、友だちの発言をよく見聞きし、相づちを打ったり、みんなが見ているのを確認してから話し始めたり、下学年にもわかるように話しをするようになった。今後も様々な場面でコミュニケーションの力が発揮されるよう引き続き取り組んでいきたい。

#### 2 成果……めざす子どもの姿

◇友だちとかかわり、話すこと・聞くことがしっかりできる。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
(下学年) ◎最後まで話を聞いたり、質問や意見を言ったりすることができる。 ○70%の子どもが、個々のめあてを達成する。 ※児童へのアンケートと教師の見取りから評価する。<児童・教師>	【評価】 A ・児童へのアンケートでは、「できた」または「すこしできた」と全員が答えていました。また教師の見取りでも、友だちの話を聞こうとしたり相手にわかるように話そうとしたりしている姿が多く見られました。
(上学年) ◎相づちなどの反応をしながら話を聞いたり、みんなに分かるように質問や意見を言ったりすることができる。 ○70%の子どもが、個々のめあてを達成する。 ※児童へのアンケートと教師の見取りから評価する。<児童・教師>	【評価】 A ・児童へのアンケートでは、「できた」または「すこしできた」と全員が答えていました。また、教師の見取りでも、子どもたちは自分よがりにならず相手の反応をよくみながら、下学年にもわかりやすく話したり、質問をしたりしていました。

#### 3 教育活動

◇話し合い活動で自分の考えを伝える、相手の考えを聞くことができるよう指導・支援する。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎子どもたちが主体となって活動できる行事や学習活動を計画し、学級や縦割り班を中心としたグループ活動の中で、子ども同士がかかわり合う場面を設定する。 <教師> ○学年で、年2回計画・実施する。 ○学部行事で、年2回計画・実施する。	【評価】 A ・学年では、教科の学習やお話会に向けて、また中島小学校との交流会準備などで話し合い活動を行ってきました。学部では、なかよし遠足や文化祭の準備、縦割り清掃などのいろいろな場面で、子ども同士がかかわり合いながら、活動をしてきています。

#### 4 運営活動

◇話し力・聞く力をつけるための話し合い活動の支援の仕方について研修を行う。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎話し合い活動が活発にできるよう、職員で情報交換をし、効果的な話し合い活動のさせ方について研修する。 ○年2回、学級での取組を検討しあう研修を行う。<教師>	【評価】 A ・日頃の情報交換をはじめ、学部研修会の中でも効果的な話し合い活動について、意見交換等を行ってきました。3学期には、各学級の取組みについて研修を行う予定です。

\*評価結果欄のA、B、Cは、下記の評価を表しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

#### 【保護者アンケートの結果】

『小学部は「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」のために適切に取り組んでいる』の設問に対して、7月、12月どちらのアンケートでも「あてはまる」100%の評価をいただきました。今後もアクションプランを真摯に実行し、子どもたちの様子をお便り等でお知らせしながらコミュニケーションの力の育成に取り組んでいきます。

## 中学部

### アクション・プラン 「基礎・基本の定着と考える力の育成」

#### 1 成果と課題

- ・校外学習や進路学習などでは、生徒一人一人が自分に合った目標を設定し、それに向けた取り組みを行った。また、行事の後には、自分の目標が達成したかどうかを振り返る時間を設けた。
- ・国語・数学・英語などの教科では、計画的、継続的に家庭学習の課題を提示し、学んだことの定着に努めた。

#### 2 成果……目指す子どもの姿

◇自ら考えて課題に取り組む生徒

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎生徒一人一人が個々の目標に沿った学習課題に取り組むことができる。  ○80%の生徒が学習課題に取り組む（学期末アンケート）。<生徒・教師>	【評価】 A ・様々な場面で、教師と相談しながら生徒一人一人に合った目標や課題を設定しました。生徒は自分で決めた目標に向かって一生懸命に取り組む姿がみられました。

#### 3 教育活動

◇ねらいや内容、手順等を理解して学習に取り組めるよう指導・支援する。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎生徒が自ら活動のねらいや手順等を確認できる教材作成のための資料を準備する。  ○80%の教師が設定する。<教師>	【評価】 A ・校外学習や進路学習では、プレゼンテーション資料を使って視覚的に理解しやすい提示に努めました。また、生徒が自分で記入する形式の補助教材を使って、理解できたかを確認しました。
◎様々な活動をとおして、相手に分かりやすい語句や言い回しについて、個々の実態に合った伝達方法を用いて表現する場面をつくる。  ○80%の教師が設定する。<教師>	【評価】 B ・日記の発表会、行事の目標発表、感想発表などの発表場をたくさん設定しました。また、発表の前に、教師と相談や練習を十分に行ってから本番に臨みました。しかし、まだ言葉や表現方法に不十分な面もみられるため、これからも継続して支援していきたいと思います。

#### 4 運営活動

◇学校・家庭で連携することで定着につなげる。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎学校生活の様子を学年・学級だよりや連絡ノートを通して家庭に知らせる。  ○学年・学級だよりで月1回情報提供する。<教師>	【評価】 A ・学部だより、学級だより、毎日の連絡ノート、送迎時などで学校生活の様子を伝えました。また、家庭での様子も連絡ノート等で知らせてもらい、学校での支援に生かしました。
◎校外学習や合わせた指導の前後にプリントや口答などで既習事項の定着を図り、計画的な家庭学習への支援を行う。  ○80%の教師が家庭で行う学習課題を週1回配付する。<教師>	【評価】 A ・校外学習、文化祭準備、進路学習など、様々な場面で考えを文章にして表す活動を行いました。 ・各教科では、授業があった日には、定着のための家庭学習課題を提示しました。また、学級の課題として、毎日継続的に基礎・基本の定着のためのドリルに取り組みました。

\*評価結果欄のA, B, Cは、下記の評価を表しています。

A：目標を十分に達成した    B：目標を達成した    C：目標を達成できなかった

#### 【保護者アンケートの結果】

全保護者から「あてはまる」の評価をいただきました。今後も様々な場面で生徒一人一人に合った支援の工夫をしていきたいと思ひます。また、家庭との連絡を密にとり、協力して取り組みたいと思ひます。そして、各活動での成長の様子を、便りや連絡ノートでお知らせいたします。

## 高等部（産業技術科）

### アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

#### 1 成果と課題

他校や地域の方と交流する機会をとおして、相手の意図を察し、自分の障害の状況や考えていることについて、相手に分かりやすく伝えようとする姿勢が見られるようになった。また、運動会や文化祭等の行事をとおして、自分自身に与えられた役割やそれに伴う責任を理解し、積極的にその役割を果たそうとする姿が多く見られた。

現在、学校生活の中で深刻な困り感をもつ生徒はほとんどいない。それら生徒たちが社会に出て、実際に困ったことに出くわした時、自分の状況を理解し、それを周囲に伝えられるようコミュニケーション力等を高めていくことが今後の課題である。また、高等部に入学し初めて手話にふれた生徒に対して、手話をどのように位置づけ、ろう者との繋がりをもたせてゆくかも今後の課題となっている。

#### 2 成果……めざす生徒の姿

◇自己理解・他者理解ができる生徒。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎交流活動において、他者と積極的に関わる。  ○80%の生徒が1回の交流で5人以上とコミュニケーションを取る。<生徒・教師>	【評価】 A ・他校や他学部との交流会だけでなく、地域の方を講師に招いた授業においても、自分から積極的に質問し、他者とかわりをもとうとする姿勢が見られました。

#### 3 教育活動

◇交流会に向けた活動の中で、コミュニケーションの大切さを指導する。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎他校や他学部との交流の場を設定する。  ○交流会を年5回実施する。<教師>	【評価】 A ・普通科、新潟大学手話サークル、長岡大学、栃尾高校（2回）、大手高校との交流会を設定しました。 ・ハイスクール・ガイダンスに参加しました。

#### 4 運営活動

◇社会人講話や職場見学、職場実習などの体験的な学びの機会を設定する。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎教師による社会規範に関する講話、ハローワークとの連携、会社との情報交換等により、社会に出る準備のための情報提供をする。  ○社会規範に関する講話を年2回実施する。<教師> ○職場見学を年1回実施する。<教師>	【評価】 A ・教師による社会規範に関する授業を行いました。 ・ハローワークと連携し、職場見学（ヤヨイサンフーズ）を訪問しました。 ・ビジネス・マナー&コミュニケーションをテーマにした進路講話を実施しました。 ・聴覚障害のある社会人との懇談会を計画しています。

\*評価結果欄のA, B, Cは、下記の評価を表しています。

A：目標を十分に達成した    B：目標を達成した    C：目標を達成できなかった

#### 【保護者アンケートの結果】

「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」のために適切に取り組んでいるという項目について、1学期は85.7%、2学期は100%の保護者から「あてはまる」の評価をいただきました。今後も様々な機会を設けて、生徒が自主的に活動し、成長できる場面を作っていけるよう取り組んでまいります。ご家庭でのご理解、ご協力ありがとうございました。

## 高等部（普通科）

### アクション・プラン 「基礎・基本の定着と考える力の育成」

#### 1 成果と課題

高等部普通科教育課程の中心となる「職業生活」の充実をめざして、今年度改善を行った。生徒は「ビルクリーニング（1学期）」、「喫茶接客（2学期）」、「介護（3学期）」の3種の職業について、昨年度までにはない深い学習を経験した。実際に3つの職業に就いている方に講師をお願いし、直接指導していただいた。その過程で、生徒の学習意欲も少しずつ高まり、実習先でも自信をもって学習に取り組めるようになった。地域と連携することで、生徒たちは地域の方々から可愛がられ、また、育てていただけるようになった。また、週に1回のデュアル学習での経験をとおして、職場でのコミュニケーションの力も着実に身に付けている。働く喜びや仕事に取り組む意欲や態度を育てるために来年度もこの取組を継続していく予定である。

#### 2 成果……めざす生徒の姿

◇自分の課題と向き合い、課題解決（進路実現）のために取り組む生徒

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎一人一人が「職業生活」に対して課題をもち、取り組むことができる。  ○80%の生徒が、個々の課題を設定、自覚して学習に取り組み、向上がみられる。 <生徒・保護者・教師>	【評価】 B ・職業生活に参加した生徒全員が、各々の課題を自覚して学習に取り組み、技能等の向上がみられました。ただし、16%の参加できなかった生徒については学習形態の工夫等の必要があったと反省しています。

#### 3 教育活動

◇生徒一人一人の課題を把握し、適切な指導と支援を行う。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎「デュアル学習」の場面を設定し、事前指導と振り返りの時間を設定する。  ○年3回デュアル学習の評価の場面を設定する。 <教師>	【評価】 A ・デュアル学習では、参加した生徒全員が「A」評価をいただきました。また、デュアル学習の事前と事後に、それぞれ目標設定と反省の時間を設け、個人の課題及び目標と達成状況を明確にする取り組みを行いました。

#### 4 運営活動

◇校内実習及び現場実習の取組について、家庭と連携を行う。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎「デュアル学習」の取組の様子について、情報提供をする。  ○年2回、取組の様子をデュアル学習だより等で情報提供する。<教師>	【評価】 A ・年2回以上、取組の様子をデュアル学習だより等で情報提供しました。また学部だより、学級だよりをとおして保護者に紹介しました。（学部だより10月号、デュアルだより1・2学期号）をご参照ください

\*評価結果欄のA, B, Cは、下記の評価を表しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

#### 【保護者アンケートの結果】

多くの保護者の方々から「あてはまる」の評価をいただきました。「あてはまらない」との評価はなかったのですが、「わからない」という評価もいただきました。この理由については「授業にほとんど出ていないのでわからない」というご意見や今年度実施した「デュアル学習」についてローテーションで体験したかったとのご意見もいただきました。デュアル学習については今後就労を視野に入れた地元での実習につなげていきたいと計画しています。また学校の指導が過度ではないかというご意見もありました。生徒指導面、特にSNSや個人情報、また異性との接し方について、職員も研修を積んでいこうと思います。ご意見ありがとうございました。今後もアクション・プランを真摯に実行していきます。

## 寄宿舎

### アクション・プラン 「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」

#### 1 成果と課題

昨年度から継続して、身近にある言葉や話題になっている言葉を紹介したり、その紹介した言葉の復習を行ったりすることで、舎生が言葉を習得することができるよう支援した。また、学習した言葉を生活の中で使うことができるよう、それらの言葉を皆の前で発表する機会を設けた。その結果、舎生は自ら進んで言葉を覚えようという意識をもち、分からない言葉があった時にはすぐに調べたり職員に聞いたりし、実際に使ってみようとする姿が見られるようになった。

今後は舎生が学習した言葉を日常生活の中で使う機会をたくさん設け、着実に身に付けることができるよう支援していく必要がある。

#### 2 成果……めざす子どもの姿

◇いろいろな言葉やその意味を知り、語彙を増やすことができる。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎身近にある言葉や話題になっている言葉の意味や活用方法を理解することができる。  ○80%の舎生が取組の中で楽しく身近にある言葉や話題になっている言葉を獲得する。<舎生>	【評価】 A ・12月に実施したアンケートから、100%の舎生が楽しく身近にある言葉や話題になっている言葉を獲得することができました。

#### 3 教育活動

◇いろいろな話題で会話する機会を設定し、支援する。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎舎生や職員が朝会で身近にある言葉や話題になっている言葉について説明する時間を設ける。  ○月に2回、朝会時に舎生や職員が身近にある言葉や話題になっている言葉について説明する。 <指導員>	【評価】 A ・月に3～4回朝会時に職員が季節や流行に合った言葉を選んで説明しました。また、舎生も学期に1回一人ずつ「ことバンク発表」として、自分が学期中に学んだ言葉を発表しました。

#### 4 運営活動

◇語彙を増やすための取組について、家庭と連携を行う。

◎評価項目と○評価基準<評価者>	評価結果
◎お便りやホームページをとおして、家庭に寄宿舎での取組の様子を情報提供する。  ○お便りやホームページで学期に2回取組について情報提供する。<指導員>	【評価】 A ・寄宿舎便りで4回、ホームページで2回、語彙を増やすための取組について保護者に向けて情報提供しました。その他にも文化祭の寄宿舎コーナーで取組を紹介しました。

\*評価結果欄のA, B, Cは、下記の評価を表しています。

A：目標を十分に達成した B：目標を達成した C：目標を達成できなかった

#### 【保護者アンケートの結果】

全ての保護者の皆様から「状況に応じたコミュニケーションの力の育成」のために、適切に取り組んでいるという項目に「あてはまる」の評価をいただきました。今後も舎生が楽しく言葉を覚えることができるようアクション・プランを真摯に実行していきます。ありがとうございました。